



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：イスラム平和維持軍設立への動き

(5月5日付リヤド紙)

5月1日、イフサンオール・イスラム諸国会議機構(OIC)事務総長は、OIC新憲章採択を転機としてOICが組織的かつ戦略的に人道支援活動に貢献することが重要であると発言した。5日それを受けて、アターアッラー・マンナーン OIC 報道官は、OICの枠組での「平和維持軍」の設立について以下のように述べた。

1. 混乱が続く一部のイスラム諸国に対して、OICの枠組での平和維持のためのイスラム軍を派遣することが重要である。
2. (本年3月14日のダカールOICサミットで採択された)OIC新憲章は、平和維持軍の設置措置について示唆している。軍設置により、イスラム諸国民によるOICへの評価が高まり、地域で活動する国際機関と同様に重要な役割を果たし、OICの役割は更に強化されるだろう。
3. 平和維持軍の設置のためには、OICに加盟する57カ国の支持を必要とする。この種の軍が任務を遂行するためには莫大な資金支援が必要である。バングラデシュ、インドネシア、ヨルダン他のイスラム諸国の軍は国連のPKOに参加していることから、OICの枠組でも同種のPKOは可能であろう。
4. この平和維持イスラム軍設置のアイディアは新しいものではない。1996年にフィリピンで発生した有事の際には、OICの枠組でインドネシア及びバングラデシュ軍からなるイスラム同盟軍が結成され、危機解決に活躍した。
5. ただし、軍の経費を賄うに十分な財源確保や、OIC加盟国としてのイニシアティブの欠如により、現状ではOIC平和維持イスラム軍の設置は容易ではない。